

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 2 1

事業名

ぶどう・トマトの担い手育成と産地活性化（高梁市備中町平川）

事業の概要

高梁市のピオーネ、トマトは、県下でも屈指の産地を形成しており、地域を代表する主たる農産物となっている。しかし、生産者の高齢化によって、担い手不足や耕作放棄地の発生による産地の活力低下が懸念されている。

これまで、普及センターは関係者と協力して、備中町をモデル地区としたピオーネの園地やトマトのほ場、及び後継者に関する実態把握と農地流動化に対する意向調査を実施してきた。関係各組織と情報を共有化し、農地の流動化等を進めることにより、多様な担い手の確保・育成や労働支援組織を育成するための地域合意が得られ、平成19年度に備中町産地活性化支援協議会が発足した。

平成20年度は、これらの合意の下に、平川田舎暮らし体験・交流事業として、都市住民の受入・交流活動に取り組んだ。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
平川村定住推進協議会 (備中町産地活性化支援協議会) トマト・ピオーネ生産組織、備中営農支援センター、農業士、平川地区コミュニティ、高梁市備中地域局、JAびほく農業委員会、農業普及指導センター他	連携会議開催（高梁市備中地域局） 園地情報の提供 (生産組織、JA、農業委員会等) 農業体験交流（生産組織、普及センター等） 地域交流（平川地区コミュニティ、高梁市等）

実施状況

1 連携会議の開催

(1) 平川村定住推進協議会の開催

- ①日時：平成20年6月24日（火）
- ②場所：平川いこいの家
- ③内容：田舎暮らし体験・交流事業調整会議
(応募者の審査、指導農家の決定、今後について協議)
※田舎暮らし体験・交流事業費・・・1,172,000円



連携会議開催

(2) 平川田舎暮らし・農業体験事業反省会の開催

- ①日時：平成20年11月18日（金）
- ②場所：平川いこいの家
- ③内容：体験交流実施内容についての反省と今後

(3) 田舎暮らし体験・交流事業報告会

- ①日時：平成20年12月13日（土）
- ②場所：高梁国際ホテル
- ③内容：2組の交流体験者の体験記発表
意見交換、情報交換、今後の取組等

体感 田舎暮らし
岡山県高梁市備中町の農業体験事業のご案内

この事業は農業や農村生活に興味を持っている方が、トマト・ピオーネの収穫体験をしたり、粘り強い稲刈りに参加して地域住民と交流を図るなど農村生活を体験することで、農村への理解と関心を深めるとともに中山間地域の活性化を図ることを目的に行うものです。

★コースA
岡山県産のぶどう(40箱)
体験 家、子供2人
1日体験(午前・午後)として実施
※お申し込みの際は必ずお申し込みの人数を明記してください
※参加費は体験者1人あたり10,000円です

STEP 1 STEP 2 STEP 3 STEP 4 STEP 5 STEP 6

2020年度募集要項 2組程度 / ピオーネ栽培希望者 2組程度
募集期間 平成20年4月 ▶ 平成20年6月16日

718-0304 岡山県高梁市備中町有明2-2-2
平川村定住推進協議会事務局(高梁市備中町備中地区農業支援センター内)
電話 0866-45-4514 FAX 0866-45-9912

交流体験募集パンフ→

2 新規参入者等受入推進

4組の募集に対して、3組の応募があった。

(大阪府S氏夫婦、神戸市I氏夫婦、岡山市D氏)

(S夫婦は延べ10日間(内農業体験交流3回、地域交流3回、その他2回)
I夫婦は延べ12日間(内農業体験交流5回、地域交流3回、その他2回)
D氏は延べ5日間(内農業体験交流4回、地域交流0回、その他1回))

(1) 平川憩いの家で田舎暮らし・交流事業オリエンテーションの実施(第1回目)

①日時：平成20年7月12日(土)

②場所：平川いこいの家

③内容：田舎暮らし・交流体験者への事業説明等
体験者としてピオーネ1組(夫婦)
トマト1組(夫婦)が出席



オリエンテーション実施

(2) 平川憩いの家で田舎暮らし・交流事業オリエンテーションの実施(第2回目)

①日時：平成20年7月19日(土)

②場所：平川いこいの家

③内容：田舎暮らし・交流体験者への事業説明等
体験者としてピオーネ1名が出席

(3) 農業体験交流の実施

①7/16：ピオーネ農業体験

②7/27・28：トマト農業体験

③9/13・14：ピオーネ、トマト農業体験

④10/4：トマト農業体験



農業体験交流

(4) 地域交流体験の実施

①7/12：地元土曜夜市へ参加(2組参加)

②11/3：平川地区秋祭り体験指導(2組参加)



2組とも地域の秋祭りに参加

成果・効果

- 3組の交流体験希望者の受入を実施した。そのうち、2組は平成21年度も交流の継続を希望している。1組は就農予定地の確保を、1組は継続的な農業体験を希望している。平成21年度は既存の2組の継続交流と新規に2組を募集する予定としている。
- 地元、産地の担い手確保に対する意識の高揚が図られた。
- 都市と農村の体験交流モデル地区としての役割(備中町平川地区)が期待される。